



サミットデーと
記念トレインがつなぐ
110年の軌跡

西武線がひらく 沿線連携の未来



04

西武線沿線サミット
自治体の魅力発信
プロモーション

試合開催中、ベルーナドーム内の大型モニターテレビジョンに、西武線沿線サミット加入自治体である豊島区・清瀬市・所沢市・飯能市・横瀬町・秩父市それぞれのPR動画が映し出されました。

清瀬市のPR動画は、市内を彩る桜並木や新緑、夏にはひまわり畑など、清瀬の豊かな自然が美しく描かれ、来場した多くの観客に清瀬市を知っていただく貴重な機会となりました。



01

各自治体のマスコット
公式キャラクターが
勢揃い

ベルーナドーム場外に設けられた特設ブースには、各自治体を代表するキャラクターたちが大集合。豊島区の「としまなまる」、清瀬市の「ニンニくん」、所沢市の「トコロん」、飯能市の「夢馬（むーま）」、横瀬町の「ブーさん」、秩父市の「ボテくまくん」と「ぶめるちゃん」が来場者をお迎えしました。沿線それぞれのまちの個性と魅力が一堂に会し、子どもから大人まで笑顔あふれる交流のひとときとなりました。



03

子供たちが
セレモニアルピッチと
フラッグ応援隊に参加

西武線沿線サミット自治体に暮らす小学生30名が、ベルーナドームのグラウンドでセレモニアルピッチとフラッグ応援隊に参加しました。堂々とした投球や、力いっぱいの旗振りに大きな拍手が送られ、スタンドの観客からも温かい声援が。西武線沿線のまちを代表して子どもたちが一体となり、選手たちとともに試合を盛り上げました。



02

特設ブースで
各自治体の魅力を
発信

場外エリアには、6自治体の特設ブースが並びました。観光ガイドやマップ、特産品など、それぞれのまちの魅力を紹介。清瀬市からは「きよせ棒」や清瀬駅開業100周年記念グッズも販売され、多くの来場者が手に取りました。沿線をめぐる楽しさや地域の個性がぎゅっと詰まったブースは、まさに「まちのアンテナショップ」のような賑わいを見せました。

NEWS TOPICS

SI
15

「武蔵野鉄道開業110周年トレイン」の
出発式を池袋駅で開催

10月22日から1ヶ月程度運行予定



左：清谷市長 右：西武鉄道株式会社 小川社長

池袋線の前身・武蔵野鉄道の開業110周年を記念し、特別列車「武蔵野鉄道開業110周年トレイン」が華やかに出発。池袋駅で行われた出発式には、豊島区から秩父市まで沿線10自治体の首長が参加し、沿線の絆を象徴する門出となりました。先頭車両には、公募65作品の中から選ばれた記念ヘッドマークを掲出。さらに、全車両の中吊り広告が各自治体の観光地や特産品、文化行事をテーマに彩られ、まるで「走る沿線ギャラリー」のよう。車内に一歩入ると、まちの風景が次々と現れ、沿線を旅しているような臨場感が広がります。

110年前の開業当時から、人々の暮らしを支え続けてきた西武池袋線。節目の年を迎えた今、過去と未来、そして地域をつなぐレールの意味をあらためて感じさせる記念の一日となりました。

清瀬市の中吊りは、各車両の3列目。ご乗車の際はぜひご覧ください。